【別紙様式2】

令和5年度　県立霞ヶ浦聾学校(特別支援学校)自己評価表

目指す学校像	◆安全・安心な環境のもと、楽しく元気に学べる学校　◆一人一人の学びを大切にし、豊かなコミュニケーションと日本語の力を育み、生きる力を育てる学校 ◆教職員一人一人が自信と誇りをもって、勤務できる学校　◆保護者、社会、関係者と共に歩む開かれた学校

昨年度の成果と課題	重　点　項　目	重　　点　　目　　標	達成状況
〈成果〉 ・緊急時を想定した避難訓練では、視覚教材や避難訓練事後シートを活用することで、自ら安全を意識する機会をつくることができた。 ・ICTを使用した健康観察を実施したことで、全員が、自分の健康について考えるようになった。 〈課題〉 ・自らの安全意識を高められるように、緊急時を想定した訓練の事前学習や事後学習を継続的に実施し、さらに充実を図る。	安全安心、清潔で整備された学校づくりと心身共に健康な幼児児童生徒の育成	①安心安全な教育環境の整備　【危機管理】 ②自ら健康・安全に生活する力の向上（健康教育、防災教育）　【自己管理能力の育成】 ③信頼し絆を深める人間関係づくりの推進　【豊かな心の育成】	B
〈成果〉 ・適切な言葉遣いを意識させながら、幼児児童生徒同士の話し合い活動を多く設定したことで、自分の思いを相手に分かりやすく伝えようとする様子が見られた。 〈課題〉 ・聴覚活用指導の指導力の向上に努める必要がある。 ・聴覚障害や障害認識について、系統的に学ぶ機会を設定する必要がある。	聴覚活用指導とコミュニケーション力の伸長による確かな日本語の育成	④個に応じたコミュニケーション手段の活用の推進　【伝え合い分かり合う喜び】 ⑤日本語による「読み」「書き」能力の向上　【確かな日本語の習得】 ⑥情報を正しく理解し、適切に表現する力の育成　【豊かな表現力の育成】	B
〈成果〉 ・タブレットや電子黒板などのICTを充分に活用したことで、幼児児童生徒が主体的に学習に取り組む様子が見られた。 〈課題〉 ・聾教育の専門性の向上と、教科指導の専門性の向上を図る必要がある。 ・ICT周辺機器の充実、ICTを活用した授業実践の研修の充実など図る必要がある。	基礎・基本の定着と確かな学力の向上	⑦「主体的・対話的な学び」を目指した授業づくりと学習評価の工夫　【学び合う学習】 ⑧学習場面に応じた効果的なICT活用の推進　【ICT活用】 ⑨自立と社会参加に向けた教育活動全体を通したキャリア教育の推進、進路指導の充実　【キャリア発達、進路指導】	B
〈成果〉 ・保護者学習会の開催により、聴覚障害に対する考え方や取り組みについて支援することができた。また、保護者からのアンケートを受けて内容の精選もできた。 〈課題〉 ・学習会後のアンケートをもとに、保護者のニーズに合わせた情報提供と教育相談を実施していく。 ・小中学校への訪問、連携の際に、有用な助言支援を行う。 ・保護者の障害理解、難聴児の自立活動の必要性を学習会や学校公開、説明会などで伝えていく。	社会に開かれた教育活動と専門性を活かした地域の特別支援教育の充実	⑩早期教育相談、通級指導教室の充実　【聴覚障害教育の保障】 ⑪小・中学校に在籍する聴覚障害児や担当教員への支援　【専門性を生かした支援】 ⑫経験を広め、豊かな人間性と社会性を養う地域と連携・協働した学習活動、交流及び共同学習の充実　【地域連携】	B

〈成果〉 ・コンプライアンス研修を定期的に実施したことで、服務規律の遵守とコンプライアンス意識の向上を図ることができた。 ・会議の終了時刻を明記したり、資料を紙媒体からデータ化したりしたことで、仕事の効率化を図ることができた。 〈課題〉 ・ICTを十分に活用することで、業務内容の精選を図る。	信頼される学校づくりと働き方改革の推進	⑬服務規律の遵守とコンプライアンス意識の向上 【コンプライアンス】 ⑭よりよいワーク・ライフ・バランスに向けた働き方感覚や業務の見直し、改善 【働き方改革】	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果、課題及び次年度への改善策 ○成果　●課題　◇改善策
国語	・言葉を適切に表現する力や伝え合う力を身に付け、言語感覚を養う。 ・言葉に対する興味・関心をもち、読み書きの力の伸長を図る。	・授業の中で視覚的教材を活用したり、個に応じた言葉の世界を広げ、読む力や書く力を付けたりすることで、考えや気持ちを適切に表現し伝え合うことができるようにする。 ・学期ごとに各種検定試験を実施・選奨したりして、日本語による読み書き能力の向上を図る。	②③④⑤⑥⑦⑧	A	○タブレット端末や視覚教材を活用し、個に応じた支援を行うことで、考えや気持ちを適切に表現し、伝え合うことができた。 ○漢字検定・読字力検定を活用し、言語力を高めることができた。 ●学習の基礎となる言語力・思考力を育成する必要がある。 ◇各種検定の継続実施と思考力を育むための指導法を検討する。
社会	・社会に対する関心を高め、社会的なものの見方・考え方を身に付けることができるようにする。 ・社会的事象の特色や意味を考え、社会への関わり方を選択したり、判断したりすることができるようにする。	・社会的事象（位置や空間の広がり、時期や時間の経過、地域や生活の特色等）を関連付けて考えることができるように、ICT機器、視覚的教材や地図、年表等の資料を積極的に活用する。 ・校外学習、宿泊学習、社会科見学等の体験学習を通し、自分で課題を設定することや周囲と意見を出し合いながら課題を追求できるように事前事後指導を計画的に行う。	④⑤⑥⑦⑧	B	○デジタル教科書やipadなどのICT機器、視聴覚教材を使うなどして、理解を深める授業を展開することができた。 ●校外学習等の体験学習を行う機会が少なく、体験を通して、地域の課題を考えたり、体験を通しての気づきを知識として蓄積する場が少なかった。 ◇学習内容に合わせた校外学習マップの作成。
算数・数学	・数量や図形についての基礎的知識・技能を身に付け、それらを生活や学習等の様々な場面で活用することができる能力や態度を育てる。	・作業的・体験的活動及び、具体物を用いた活動を多く取り入れ、自ら操作する等、主体性を高め、気がついたことを知識と結びつけられるようにする。 ・発展的・応用的に考えたことなどを自分の言葉で表現し、伝え合う・学び合う・高め合うなどの学習活動を積極的に取り入れるようにする。 ・ICT機器や視覚的教材を授業の中に取り入れることで、主体的・対話的な学びを促せるような環境を整え、数学的な見方・考え方を日常生活の中で生かすことができるようにする。	④⑤⑥⑧⑨	B	○デジタル教科書とICT機器、板書と具体物といったアナログ面を有効に使い、児童生徒同士で考え、話し合う授業を展開することができた。 ●発展的、応用的な問題に関して、児童生徒数が少なかったこともあり、伝え合う活動をすることが難しかった。 ◇児童生徒の効果的な学習を継続するために、学習活動の内容を工夫や、算数数学の教材についても入替を含めた整備を行っていく。
理科	・児童生徒が、科学的事象について既習事項をもとに予想や仮説を立て、目的意識をもって観察・実験を行い、科学的に考える能力や態度を育てる。 ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、日常生活や社会と関連した活用や論理的な思考力の基盤を育てる。	・児童生徒が習得した既存の概念（誤った概念等も含めて）を把握し、科学的な事実や原理などの理解にたどり着くための具体的体験を行い、電子黒板やタブレット端末などのICT機器を効果的に活用し、基礎的・基本的な科学的知識・技能の定着を図る。 ・ 学習の定着度や理解度を把握するために単元・節ごとに練習問題を取り入れ、基礎となる学力の定着を図る。	①②③④⑤⑥	B	○デジタル教科書やipadなどのICT機器を使うなどして、理解を深める授業を展開することができた。 ●来年度も、児童生徒が安全に、安心して学習に取り組めるように、活動内容の検討や環境の整備をする。 ◇理科の学習教材等の整備については、科学的に物事を考える力を育てられるように、より良いものを検討し、次年度も継続して行う。
生活	・自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や良さ、それらの関わり等に気付き、それらに自ら働きかけながら、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。	・具体的な活動や体験を取り入れ、人や自然と関わる楽しさが分かる学習を行う。 ・観察日記等を使って見付けたり、比べたり、質問したりするなどの多様な学習を取り入れるようにする。	①②③④⑤⑥	B	○季節に応じて、具体的な活動を取り入れることができた。友達、地域の方などと交流を深め、楽しんで学習し、記録カードに記録することができた。 ●来年度も、活動内容の検討や環境の整備をする。 ◇教科との関連など、計画的に取り扱うことを来年度も継続する。

音楽	・器楽等の音楽活動を通して、系統的に基礎的な演奏技能を身に付け、音楽活動の楽しさを味わうことができるようにする。	・視覚的教材やICT機器等を活用したり、様々な楽器に触れる題材を幅広く取り扱ったりすることで、児童生徒が、音楽を楽しみながら自ら取り組むことができるようにする。	③④⑤⑦⑧	B	○電子黒板やタブレット端末などのICT機器や視覚的教材を効果的に利用することで器楽や鑑賞等の活動に楽しみながら取り組むことができた。 ●器楽の授業で取り扱う楽器の数が限定されてしまった。 ◇いろいろな楽器に触れることができるように活動内容を検討する。また、引き続き、ICT機器や視覚教材を利用して興味関心を引き出せるような授業づくりに努める。

図工 ・ 美術	・造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育てる。 ・表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育てる。	・制作活動をするにあたって、児童生徒のイメージを表現したい形や色、感触等などを、自ら主体的に積極的に表出できるようにする。その際、自分の思っているイメージについて言葉で表現したり、意見を聞いて考える力を育む。 ・表現や鑑賞の際、友達や教員の作品の捉え方、作品の見方や感じ方を表出する活動を通して、理解を深めたり、作った作品を展覧する活動を通して、創作の意味や美術文化への理解を深めたりする機会をもつ。	④⑥⑧⑨	B		○制作にあたり、基本的な内容を確認したうえでICT（タブレットやPC）を活用し、イメージを膨らませることができた。またできるだけ自主的に作品作りを進めるよう配慮した。鑑賞においても作品の背景や工夫を自分の言葉で表現し、伝えることができた。作品展の展示、鑑賞などを体験することができ、美術展への関心を深めることができた。 ●教科担当が毎年変わることもあり、道具や材料が十分でないため制作できないことが多かった。 ◇次年度で扱う内容をあらかじめ決め、必要なものを事前に購入する必要がある。（係に図工美術担当者が殆どいないのが課題。
家庭 技術 職業家庭	・生活をよりよくするための能力や態度を育てる。 ・安全に注意し、技術や家庭の各分野に関する実習の楽しさを味わう。	・技術・家庭の基礎・基本的事項について理解を深めることにより、日常生活と深く結びついていることを実感できるようにする。また、生活の自立に必要な衣食住、そして木材、電気、生物育成、情報の各分野における一般常識や役に立つ知識を身に付け活用できるようにする。特に、家庭分野の「食」に関しては栄養教諭との連携を図っていく。 ・児童生徒が安全かつ楽しく実習に取り組めるよう、ICT機器や視覚教材を積極的に活用し、自ら主体的かつ対話的な学びがつなげ、自主性を育んでいく。	②④⑥⑧⑨	B		○デジタル教科書やICT機器、身近な具体物を有効に活用し、授業を進めることができた。また、生徒自身がICTを積極的に活用して、実習においての記録、前回との比較をするなど、積極的な活用が見られた。 ●少人数での実施のため、実習時にお互いに見せ合ったり、意見を聞いたりして修正をするという場面が少なかった。 ◇技術室、家庭科室の環境整備の一環として、必要な機器等について、見直しを行い、必要なものを購入したり、修繕したりしていく。
保健体育	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、体力を高める。 ・健康・安全に注意し、運動の楽しさや喜びを味わい、豊かな生活を営む態度を育てる。	・運動の経験を増やせるよう、多様な運動種目を設定し、個々の能力に応じた技能習得のため段階的な指導を行う。また、発達段階や能力に応じた活動を行う。自ら目標を決めて努力したり、技能向上のための思考力を育んだりできるように、教材・教具、学習カードを工夫する。また、必要に応じてモニター、タブレット等ICT機器を使用する。（体育領域）	②③⑥⑦⑧⑨	B	B	○運動動作、運動経験の獲得のために用具の操作・活用をする場を設定したり、ICT機器を活用しながら、いろいろな運動種目を設定したりすることができた。 ●運動量の確保、運動経験の不足 ◇スポーツタイムの継続・工夫や部活動等での基礎体力向上に向けた指導の工夫、新たな運動種目の設定、スポーツ体験教室等の計画を行う。 ○養護教諭と連携を図り、計画的に保健の授業を進めることができた。 ●病気の予防や生活習慣改善等について、自ら気付くことができるようにしていく必要がある。 ◇興味関心に基づく授業内容等、工夫する。必要に応じて、自立活動等との関連を図るようにする。
		・個々の発達段階に応じ適切な指導を行う。自己の健康を管理する資質や能力を身に付けたり、心と体の調和のとれた成長を促したりできるよう、身近な健康に関する事項を理解し、改善するための方法を考えたり、実践したりする。（保健領域）	②③⑥⑦⑧⑨	B		
外国語	・児童生徒の異文化に対する理解を深めたり、英語を使って表現する力を育てたりする。	・ALTの活用や、簡単な英語を用いて気持ちや考えを伝え合ったり、書いたりする活動を取り入れることで、児童生徒の異文化に対する理解を図ったり、積極的なコミュニケーションの態度を育てたりする。	①②③④⑤⑥	B		○小学部は普段のあいさつや感情表現を英語で伝え楽しく英語学習ができている。 ○授業の内容やALTを活用し異文化について知り触れることができた。 ●教科書に出てくる事象など体験していない内容が多い。その内容を経験しているとより理解できる内容がある。 ◇検定試験の実施、基礎英語力の育成

総合的な学習の時間	・児童生徒が自ら課題を見つけ、問題を解決する資質能力や、主体的に取り組む態度を育成する。	・児童生徒の興味・関心、生活に基づく課題や、地域や学校の特色に応じた課題などを解決できるよう支援するとともに、教科の枠を超えた横断的な学習活動を行う。	②④⑤⑥	B	○児童生徒の興味・関心に基づく課題や各教科に関連した内容を設定したことで、児童生徒が主体的に学習に取り組むことができた。 ●各教科との関連や育成したい力を明確にしながら、学習課題をより多く取り入れ、学習を進める必要がある。 ◇各教科との関連を意識しながら、ICT機器を活用し、児童生徒同士が協働的な学びを広げられるようにす
特別の教科 道徳	・道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深めることができるように、道徳的な心情や道徳的判断力、実践意欲と態度などを育てる。	・道徳の全体計画を作成し、学習指導要録に示された内容から各学部、学年の実態や課題に応じた内容を精選し、教材を工夫したり、日々の家庭及び学校生活、学校行事など関連付けたりする。 ・話し合い活動など問題解決的な学習や体験的な活動を通して、児童生徒の道徳的資質を育成する。	④⑤⑥⑨	B	○実態に応じた内容を精選して、ロールプレイを行ったり、意見を伝え合ったりしたことで道徳的な心情を育むことができた。 ●他教科との関連や生活場面での道徳的な指導内容・行動について、教員間で共通理解を図ることができなかった。 ◇他教科や生活場面でも道徳的な心情や判断力などを育成できるように、道徳の年間指導計画を共有する。

教務	企画	・学部や分掌が組織的・合理的な運営を行うことができる体制を構築する。	・カリキュラムマネジメント推進委員会などを通して、学部間の連携を図りながら、働き方改革の視点から、行事の実施内容や方法の工夫等に取り組む。	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑭	B	B	○カリキュラムマネジメント推進委員会や企画会にて、各部の教育課程や教育課程上課題となっている内容について、検討することができた。 ●カリキュラムマネジメント推進委員会や企画会などで各部の課題を会議内で十分に検討することが時間的に難しかった。 ◇各会議の内容や持ち方について、課題を十分に検討できるように、工夫する必要がある。
	庶務 渉外	・PTA活動に関して保護者に向けた情報発信を行う。 ・年間の作成スケジュールをもと に、円滑な諸帳簿の作成ができるようにする。	・広報紙等でPTA活動に関する情報を発信する。 ・PTA研修会の企画をし、有意義な研修となるよう努める。 ・諸帳簿の年間作成スケジュールを提示し、見通しをもって作成と提出が行えるようにする。	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨	B		○年2回の広報誌の発行や展示会の通知等を通して、学校での活動を発信することができた。また、ベルマーク回収では、幼稚部の保護者と協力して集計を行った。PTA研修を2回行った。（水戸聾学校見学、卒業生のお話動画配信） ●PTA研修会の出欠やアンケートなどマチコミメールでの回答率が少なかった。 ◇紙面で配付したり、保護者への声かけをしたりする。 ○諸帳簿について、各学部とも滞りなく作成、提出ができた。 ●学期末の提出について、係からの声かけが十分でなかった面があった。 ◇教務、事務と日程について確認し、全職員に確実に周知する。
	教科書 図書	・児童生徒の実態に合わせた教科書の選定を計画的に行う。 ・図書室の活用を図り、読書活動を推進する。	・担当や教科担当教員、協議会委員と意見を交換し、より良い教科書選定を進める。また、県提出期限に合わせて計画的に会議を設定する。 ・図書だよりや図書ニュースによる図書の紹介、子どもの興味や関心に応じた図書の購入、教科学習に関連のある図書の展示、お話し会を設定することで、幼児児童生徒の年齢や実態に合った本に触れる機会を増やすようにする。	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨	B		○来年度の小学部の教科用図書、重複学級の一般図書の選定において、関係職員に教科用図書を見てもらいながら、児童生徒の実態に合った教科書選定を計画的に進めることができた。 ●採択替えの年度は、関係職員に教科用図書を見てもらう時間を十分にとれるとよい。 ◇採択替えの年度は、調査に十分な時間が取れるよう計画する必要がある。 ○幼児児童生徒の興味や関心、年齢や実態に合った図書の購入と紹介、展示をすることで、本に触れる機会を増やすことができた。 ●お話し会で、音声のみでの実施、口元が見えないなど、内容の伝わりにくいものがあった。 ◇お話し会の依頼の仕方を改善、あるいは依頼する団体について検討する。
	進路指導	・幼児児童生徒及び保護者の進路に対する意識を高めるとともに、発達段階に応じた進路指導の推進を図る。	・進路に関する適切な情報を提供し、キャリア教育に関する体験活動等を行う。 ・他学部見学・体験の機会を設定する ・「キャリア・パスポート」を計画的に活用する。	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨	B		○他学部見学や体験については、必要に応じて行うことができた。また、職場体験活動など体験的な学習を行うことができた。 ○キャリアパスポートについては、年度初めに目標を立て、それに沿って活動することができた。 ●進路関係行事について、各学部で職員全員が共通理解をもって、進めていく必要がある。 ◇進路指導担当教員が中心となり進めていく。

情報	情報管理	・情報機器の経年劣化等に伴う入れ替えなどを計画的に進めるとともに、保有する機器の管理を行いつつ、最大限に活用できるようにする。	・学校全体のパソコン、周辺機器、ICT機器等について、総合的かつ中長期的に見通した計画を立て、有効に活用できるように保守管理及び整備を進める。その際には、校務分掌の各関係部または係、事務との連携を図りながら進める。 ・保有している（既存）機器や新規購入品を含め、校内で有効かつ効率的に活用できるように、管理を行う。また、新規導入された機器の使用整備を進め、学校全体で積極的に利用できるようにする。。	①⑧	B	B	○視聴覚室内の物品を事務と連携を図りながら、更新することができた。 ●◇校務用PCを次年度更新で話はまとまっている。しかし、一部のPCの調子が悪くなったのも数台あり、事務と連携を図りながら、来年度に向けてどのようにして更新を進めるかを引き続き検討していく。それと同時にWindows11への切り替えタイミングについても考えていく。（Windows10のサポート終了も間近なので、その件も併せて、事務と連携を図っていく）
	ICT メディア	・ICT機器の管理場所の集約を行い、管理を部全員で行い、管理のスキルアップに努める。	・ICT機器の全体、各所属での管理やセキュリティを考慮し、様々な行事や学習等での取り扱いができるよう、研修を行うなど、積極的に学校全体での活用を推進する。	①⑧	B		○児童生徒用iPad及び教員用のiPadのメンテナンスや機器・周辺機器の貸与について全員で共通理解を図ることができた。また、オンライン用の機器についても全員で管理していくことができた。。 ●◇ネットワーク構築に必要なものとオンライン用に必要なものが被った時に、機器不足になってしまったことがあるので、オンライン専用の機器を少しずつ取り揃え、校内ネットワーク構築とは別に準備できるよう、進めていく。

指導研究	自立活動	・中長期的な視点に基づき、集団補聴システムの検討を行い、幼児児童生徒の聴覚管理に積極的に取り組む。	補聴援助システムの導入に向けた準備や現存設備（集団補聴器や補聴援助システム）の有効活用の体制整備を行うことで、幼児児童生徒の補聴環境を保持する。 ・補聴機器の点検を定期的に行い、幼児児童生徒の聴覚を活用する態度を育成する。	④⑤⑥⑦	B	B	○補聴援助システムの導入に向けてロジャーの試行を行った。試行以外の学年については、現存設備の活用について確認し、補聴環境を整えた。 ●試用効果が認められたが、ロジャー機器関連の故障や数の不足がある。 ◇継続的にロジャー機器を購入していく。 ○補聴器業者対応や一斉点検、おたよりの発行を行い、保持管理ができる体制がある。 ●補聴機器の保持管理ができる体制にあるが、自己管理への意識にはなかなかつながらない。 ◇引き続きおたよりを発行し、補聴機器の管理について周知する。また、年度初めに各学部自立活動の目標や内容について全職員に周知していく。
	研究 研修	・聾学校教員としての専門性、自立活動や教科指導に対する指導力の向上を推進できるよう、研修を企画運営する。 ・関東地区聾教育研究会に向けて計画的に準備を進め、学校全体で発表ができるようにする。	・校内オンラインも活用しながら、経験者を講師とした研修やグループ研修など聾教育の基本についての研修を企画する。 ・各学部の研修などを企画運営し、学び合う教師集団の形成を図ることで、聴覚障害教育への理解を深め、指導力を高められるようにする。	⑤⑥⑦⑧	B		○聴覚障害児教育に必要と思われる内容について、研修を行い、希望者が参加することができた。 ●学部参観など時間の都合がつかず、希望していても参加できないものがあった。 ◇日時設定などを反省をもとに検討し、参加がしやすい形を模索する。 ○係を中心に研修を進め、それぞれの学部で研修を発表をすることができた。 ●他学部の研修内容について知り、系統性をもった指導につなげることができると良い。 ◇学部連携などにおいて、系統性を確認する機会をもつ。
生徒支援	生活支援	・各学部・校務分掌との連携を密にし、支援が必要な幼児児童生徒に関する情報を早期に把握できるようにする。	・必要に応じて臨時の生徒支援部会さらにケース会議を開き、組織的に問題行動の早期発見、早期解決に取り組めるようにする。また、スマートフォンやSNSの安全な使用方法について、児童生徒、保護者への周知及び指導を行い、未然に問題を防止できるようにする。	②⑥⑦⑨⑫	B	B	○毎月のいじめ防止対策委員会での児童生徒の把握を行うことができた。今年度はいじめに結びつくような問題行動等はなかった。 ●スマートフォンに対する事案等もなかったが、小学部高学年は今後スマートフォンを持つケースが増えてくるため、使用方法などを本人、保護者に伝えていく必要がある。 ◇中学部で使用しているスマートフォン使用上のルールを生徒会で話し合いながら見直す必要がある。
	通学支援	・児童生徒が安全に登下校できるように支援する。	・バス会社と連携して安全なバス通学を支援するとともに、自力通学を通して児童生徒の自主性を育む。	②⑥⑦⑨⑫	B		○バス会社とこまめに連絡をとり、連携を図ることができ、安全な通学を支援することができた。また、問題が出た場合は、管理職に報告し、指導助言を仰ぎ、迅速に対応することができた。 ●今年度から継続して、登下校時の置き去り防止や安全な乗降のため、運転手や添乗員から問題点の聞き取りを行い、対応について検討していく必要がある。 ◇スクールバス運行マニュアルとスクールバス運行確認手順をもとに運転手や添乗員との共通理解を図り、安全な運行について情報を共有していく。

保健安全	保健 食育	・学年に応じた保健指導や食育指導の充実を図り、自ら健康に生活する力の向上を目指す。	(保健)学年に応じた衛生や保健の指導を取り上げ、新型コロナウイルス感染症対策を講じた体験的な活動や、ICTを活用した疑似的体験を行う。実施後は、自己評価を行い、自らの健康を意識した実践力を育成できるようにする。 手洗い指導、歯みがき指導、生活習慣や衛生に関するチェック票 幼稚部保護者学習会、小中学部委員会活動 (食育)生活習慣アンケートを実施(年2回)し、実態把握を進める。生活習慣の実態と教科を関連させた食育を推進するために、幼稚部、小学部、中学部の系統性について考えていく。	②⑧	B	B	(保健)〇発達段階に応じた保健指導のほか、児童生徒朝会での保健指導、健康診断日にICTを活用した保健情報を発信、自己評価等、児童生徒の自己管理の意識付けができた。 ●児童生徒の健康に対する自己管理能力を高めるためには、今以上に日常的に関心の高い健康情報について触れる機会を増やしていく必要がある。 ◇登校時に視聴できるようなICTを活用した保健指導について発信していき、日常的に健康情報に触れる機会を作っていく。 (食育)〇年2回のアンケートを通し、実態把握、課題抽出、指導の手立てを構築できた。委員会活動では児童が食に関する啓発資料を作成し、食事マナーの意識を高めることができた。 ●栄養教諭による教科等と連携した授業を実践できなかった。 ◇今年度実施した教科等における食に関する指導で、栄養教諭の活用場面を検討し、次年度に実施できるよう計画する。
	防災 環境	・安心安全、清潔な教育環境の整備をし、避難訓練を中心とした実践的な防災教育を行い、家庭と連携して、自ら安全に生活する力の向上を目指す。	・様々なケースを考えた県連を想定するとともに、ICT機器を用いた事後学習の中で、家庭等学校外の場所での危険時も想定して考える時間を設ける。防災教育に関する学校の取り組みを家庭に情報提供し、家庭でも幼児児童生徒が安全を意識して生活できる力につなげていく。	①②⑧	B		〇5種類全8回の避難訓練で、ICT機器で振り返りを行い、校外でも安全に対応する方法を考えることができた。防災コーナーや保健だよりで、家庭に情報提供をすることができた。 ●いつでもどこでも対応できる行動力を育むために、家庭と連携して学んだことを意識できる方法について検討していく必要がある。 ◇引き続き実践的な訓練を重ねるとともに、児童生徒が行なった振り返りの結果を通して、保護者と共通理解ができる機会を設ける。

幼稚部	・幼児一人一人の言語発達段階を教員間で共有し、様々な活動の中で、ことばの獲得に努める。	・様々な活動の中で、幼児一人一人と想いを共有しながら意図的にことばをかけ、復唱を促すなど、印象に残る活動を積んでいく。	③④⑤⑥⑦⑧⑨	B	B	○様々な体験活動をとおして、幼児一人一人の実態に合わせたことばの習得につなげることができた。 ●縦割りのグループにおいては、幼児一人一人が感じたこと、気付いたこと、扱ったことばなど、教員間でさらに共有することが必要である。 ◇部会や研修等で情報を共有する機会を設ける。
	・幼児が主体的に活動できる環境や人との関わりを通して豊かな心を育む。	・幼児が興味・関心をもって自ら活動できるような教材や場面の設定を工夫する。また、人との関わりがもてるよう学級活動、合同保育環境を工夫する。	③④⑥⑦⑧⑨	B		○教材や場面の設定を工夫し、幼児が興味・関心をもって主体的に活動することができた。 ●幼児同士の関わりがさらに増えるよう、教材や場面の設定等の工夫が必要である。 ◇様々な活動の中で、ねらいを明確にして取り組めるようにする。
	・保護者に対して、幼児の発達や障害理解（受容）への支援をし、望ましい親子関係を築いていけるようにする。	・保護者と連携し、幼児に対する共通の課題や発達段階などについて共に考え、具体的な場面をとおして支援する。	③④⑤⑧⑨	B		○保護者学習会や行事等を計画的に進めることができた。 ●幼児の課題や発達段階などについて、職員全体で情報を共有し、具体的な場面を通して支援する必要がある。 ◇付き添い時や送迎時に、保護者が感じていることや疑問に思っていることを聞き取り、各家庭と連携した保育ができるようにする。
小学部	・聞いたり伝えたりする際の意識や態度を養い、コミュニケーション力の育成を図る。	・話し手が、聞き手に見ることを促したり、話し合うときのきまりを確認したりして、正しく伝え合う大切さに気付くようにする。 ・個に応じたコミュニケーション手段を活用し、促していく。 ・教師と伝え方を確認したり、どうすれば相手に伝わるか考える場面を設けたりして、伝わる・分かる経験を増やしていく。	③④⑤⑥	B	B	○聞くとき、伝えるときのポイントをその都度確認することで、伝える・分かる経験とやり取りの力につなげることができた。 ●伝えたいことを正しく伝えられないことがある。 ◇引き続き、発達段階や実態に応じて、伝え方や内容（言葉、日本語等含む）の確認を事前に行う。
	・個に応じた学習を進め、基礎学力の定着を図る。	・発問（思考を促す・内容や言葉の確認する）や教材の工夫、視覚的教材の活用等をとおして、学習内容の理解につなげる。 ・練習問題や宿題等を活用するとともに、学習方法を確認していく。	④⑤⑥⑦⑧	B		○発問フローチャート・レディネスシートの活用等を通して、言葉をおさえ、児童の思考を促し、個に応じた学習と内容理解につなげることができた。 ●基礎学力の定着に向けては、継続した支援が必要である。 ◇指導方法や家庭学習の工夫等を含め、研修を進める。
	・学校生活を基盤とした生活体験や社会体験を豊かにするとともに、友達との関係を大切にした主体的な行動ができるようにする。	・学習場面や児童会活動、行事等において、友達とともに協働し、努力したり、話し合ったり、喜びを共有したりできる場面を設定し、思いやりの気持ちや信頼関係、安心感、自信、自主性につながるようにする。	⑨⑫	B		○学校生活の様々な場面において、他学年の友達と関わったり、話し合ったりすることで、協力・協働すること、努力することの良さを感じながら、活動することができた。 ●各学年の人数が少ないという状況があり、集団づくりや活動に工夫が必要である。 ◇学部全体や複数学年合同グループ、縦割りグループ等の集団作りを工夫する等、友達との関わりと主体性につながるよう、引き続き、活動内容等を検討する。

中学部	・生徒一人一人の発達段階や障害の状態、保護者の希望等を踏まえて、指導内容、方法を工夫改善し、基礎基本の定着と確かな学力の向上を目指す。	・教科学習の充実を図るために、各教科で対話的な活動を計画的に取り入れたり、縦割りでの授業を行ったりし、伝えあう・分かり合う授業に努める。また、学習場面に応じたICT活用を推進することで、学習の定着を図る。生徒の勉強方法や学習計画の立て方について支援しながら家庭学習の習慣化を図り、自ら学ぶ方法を身に付けられるように支援する。	①⑥⑦⑧⑨	B	B	○各教科で生徒の実態に応じて年間計画を立てて、授業を行うことができた。ICTの活用や対話的な学習を継続的に行うことで、ICTスキルの向上や対話的な活動をより深め、学習理解につなげることができた。 ●基礎学力の定着。少人数なので、対話的な活動をより工夫する必要がある。 ◇より主体的に学び、深い学びとなるような指導の工夫をする。
	・生徒の主体性を伸ばし、様々な交流を通して豊かなコミュニケーション力を育てるとともに自己理解や他者理解、社会について考えを深め、将来の夢を意識したキャリア教育の充実を図る。	・礼儀や規範意識を身に付けることができるように、道徳や自立活動および生徒会活動等の充実を図る。自立活動については、年間指導計画を活用しながら、学年の系統を意識した指導ができるようにする。また、職場体験活動や企業見学などの様々な交流を、自分の将来について真剣に考える機会とし、地域や保護者、聴覚障害者と連携したキャリア教育を進める。	①⑥⑨⑫	B		○職場体験活動、聴覚障害のある大学生との交流等を通して、今ある自分の課題について振り返ったり、卒業後の生活について考えたりすることができた。 ●礼儀や規範意識については、継続して支援していく必要がある。 ◇部内で情報交換等を行い、共通理解をもって生徒支援、進路指導を進めていく。
	・学校生活や学校行事、部活動を通して心身の健康の増進を図り、将来を見据えた規範意識の向上に努め、互いの立場を尊重できる人間関係づくりを推進する。	・思春期に起こる様々な葛藤に向き合うことで、たくましい心を育み、集団生活の中での自己有用感と仲間と協力することで得られる達成感を積み重ねられるように支援する。	⑦⑧⑨⑫	B		○学校行事や部活動に意欲的に取り組み、生徒同士で考え相談しながら、解決することが多くなった。部活動では、心身の健康の増進を図ることができ、大会において、生徒それぞれが良い結果を残し、達成感を得ることができた。 ●生徒の規範意識や人間関係づくりについては、今後も継続して指導を行っていく必要がある。 ◇規範意識等は継続して指導する。また、生徒同士で話し合ったり、主体的に活動できたりするよう場を設定するなど工夫する。
相談支援部	・医療・教育・福祉などの関係機関と連携し、難聴児の学習・生活面で生じる困難さの実態や将来に向けての課題について協働して支援できるようにする。 ・各部主任や担当者と連携し、校内支援を行うようにする。	・個々の難聴児の学習・生活場面における具体的な困難さについて担当者と共有し、難聴についての理解へつなげるとともに、支援のための方策や配慮等を伝えるようにする。 ・各部主事や担任、担当者と情報共有を行い、互いに支援の方策を探るとともに見通しをもった取り組みを行えるようにする。	③⑨⑩⑪⑫	B	B	○教育・福祉関係の関係機関への支援を就学前・就学後で担当者を分けたことで本校での相談や指導と結び付けることができ、具体的な方策や配慮を伝えることができた。 ●新たな取り組みを行う場合の手続きが曖昧で情報共有がうまくできなかったことがあった。 ◇校内規約等がないものがあるので、今年度課題になったことや今後予想されることを整理して手続き等を明文化していく。 ●校内支援が一部になってしまった。 ◇校内での支援のニーズを聞き取り、校内支援のあり方を検討していく。

相談支援部	・きこえにくさについて保護者が向き合い、愛情と信頼関係に基づいて安定した親子関係を育むための支援をしていく。 ・乳幼児一人一人のきこえや聴覚活用状況を把握し、ことばの育ちやコミュニケーション力の伸長のための支援を保護者と共に考えていく。	・一人一人の聞こえの状況と聞こえにくさからくる困難を、保護者と具体的な場面で確認する。実態に合わせた聴覚の活用方法とコミュニケーションの取り方について提案しし、関わりの深い親子関係を育むことができるように支援する。 ・きこえやことば、発達に関する情報提供のために小冊子の内容と改善に取り組む。また、保護者学習会を開催し、きこえやことばに関して考える機会をもち、保護者が障害を受容し子育てに見通しをもつことができるようにする。	③④⑩	B	B	○グループ相談と個別相談を組み合わせ、さまざまな場面での子供の聞き取りや行動を、保護者と一緒に考えることで、日々取り組むことを具体的に支援できた。 ○支援冊子を完成させ、それを基に学習会を行った。昨年度の内容はアーカイブ配信をし、多くの方に情報提供できるようにした。また、大学生になる卒業生と交流する機会を設け、見通しをもって子育てができるように支援ができた。 ●保護者アンケートの結果を分析し、必要な情報の提供や実施方法について検討していく必要がある。 ◇保護者アンケートをもとに、学習会の内容や開催方法を検討していく。
	・通級児童生徒が心身ともに豊かな成長をし、在籍校においてよりよい学校生活を送れるように支援する。 ・児童生徒の生活上又は学習上の課題について、保護者や在籍校、通級指導教室と連携する体制を構築する。 ・通級指導教室の役割や機能についての啓発に努め、聴覚障害児の理解と支援につなげる。	・児童生徒の心理的な安定に配慮しながら、言語理解・表出能力の向上を図るようにする。 ・児童生徒の障害認識や自己理解を高めることで自己肯定感を醸成し、学習上または生活上の困難を改善・克服しようとする意欲がもてるようにする。 ・保護者や在籍校と定期的に情報交換する機会を設け、互いに信頼関係を築きながら支援できるようにする。 ・在籍校訪問、個別の指導計画の作成、連絡帳の活用、指導の記録の送付を通して、通級指導の目的や支援内容の共通理解を図る。	③④⑤⑥⑨⑩	B		○個別学習、ペア学習など組み合わせながら、児童生徒が意欲的に活動できるような内容を考え言語的な活動を行うことができた。 ●中学生で指導回数確保が難しい生徒がおり、指導内容の継続が難しかった。 ◇来年度の個々の状況をきき取り、指導回数や指導計画を立てる。 ○高学年以上は、聞こえについてグループで話し合うことで客観的な見方を含めながら、共通認識をもったり新たな気付きをしたりすることができ、自己理解を深めることができた。 ●時間割をペア(グループ)学習ができるように組むことに限界がある。 ◇年1，2回グループ活動日を設定できるように、計画的に調整をする。 ○保護者や在籍校と毎時間の連絡帳、在籍校訪問時の情報交換等で、情報を共有しながら支援をすることができた。。 ●在籍校へ通級修了・開始の手続きの方法がきちんと伝わらないことがあった。 ◇担当者が変わっても分かるように、事務手続きについての連絡や移行支援への関わり方について明文化する。

※評価基準： A:十分に達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない